

創世記

創世記全体のテーマと流れ

天地創造	人類の罪	ノアの洪水	諸国民と言語の始まり	アブラハムの家族	ヨセフ、イスラエルの民
1章－2章	3章－4章	5章－9章	10章－11章	12章－38章	39章－50章

登場人物：アダム、イブ、ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ
(▶覚え方、アノ～、アブラ～イヤヨ)

46章後半のポイント

46章後半では、いよいよ22年もの間、離れていた父ヤコブとヨセフが再会しました。22年ぶりの親子の感動の再会の場面が46章後半では記録されました「ヨセフに会う」という言葉はヘブライ語「*アィラ・エラ*」という創造主が族長に会う時に用いられたヘブライ語が用いられ、29節には延々と泣き続ける父と子の姿がありました。時には長く、苦しく見える人生の旅路の中でも、主は働いておられ、私たちを良きもので満たして下さいます。

その後、父ヤコブや息子ヨセフ、その兄弟達はエジプトのゴシェンの地に定住することになりました。羊飼いをしていた遊牧民から農業を中心とした低住民へと生活を変えたのです。カナン地から引っ越して来たヨセフの家族をエジプトの王パロは歓待し、エジプトで一番良い土地、ラメセス地方(肥沃な地)を彼らに与えました。

学びましょう

1. 47章13節～47章31節を読んでみましょう。

2. 47章13節～47章31節のポイントを把握してみましょう。

(1)食糧を与え続けたヨセフ

「ヨセフの政策」と記録された47章13～26節には、過酷な食糧事情の中でヨセフは必要な食糧を与え続けました。13節には飢饉が猛烈を極め、食料が全土が荒廃していく様子が記録されています。肥沃な土地の代表であるエジプト地方が飢饉になっただけでなく、荒廃するとはどれほどの飢饉だったか予想ができるでしょう。その中で最初にヨセフはお金と交換で食糧を提供していました(14節)。お金が足りなくなった時には、家畜と交換で食糧を与えました。家畜と交換というと、当時の大切な財産を奪ったと誤解されがちですが、当時の人々は、家畜に与える餌さえなくなったので、家畜を手放してでも、自分等が生き残る為の食糧を得たかったと考えられています。そして家畜さえなくなった時には、農地もろとも王様の奴隷になる事を申し出る人々にそれを認め、代わりに食糧を与えました。そうして、エジプトの国境の端から端に至るまで王様のものとなりました(21節)。23節にはエジプトの王の領地となった場所に種を蒔き、食糧とする事を許可しました。食糧を得た後もエジプトの王に1/5だけを収めさせるなど良心的でした。ヨセフは様々な方法を通して、彼らを生かす手段を取ったのです。

私たちもヨセフのように人を生かすものを与え続ける事ができます。それは福音の知らせです。ヨセフのように何かと交換ではなく、ただで与えられた救いの恵みを必要な人に提供する用意をいつでもしておかなければなりません。

※17節でエジプトの歴史に「馬」が登場します。古代歴史書によれば馬はBC2000年頃に中東に登場し、エジプトにはBC1700年ごろに入ってきました。これを通して、飢饉がBC1700以降に起こった事を聖書考古学者は指摘しました。※21節に「ヨセフは人々を町々に移動させた」という表現は、マソラ写本では「ヨセフが民を奴隷とした」と記録されています。農耕民が自分の畑を置いて、他の地に行くことは考えにくい事から、移動という言葉はマソラ写本通り、ヨセフの管理下に入ったと読むべきだとの意見が多数です

(2)父ヤコブの遺言の始まり(27～31節)

一方でゴシェンの地で暮らしを始めたヨセフの家族には祝福が与えられていました。27節に「所有地を得、子供を生み、非常に多くなった」という言葉が直前に記録されている飢饉で財産を失い、奴隷となっていく民の姿とは正反対の姿でした。そのような人生の最後を祝福されて過ごす父ヤコブにも最期の時が近づいていました。人生の最期に遺言として、父ヤコブは人生の証を語り出します(48章)。

分かち合いましょう

ヨセフは国務長官として民を「生かす」方法を取り続けました。世界には民を「滅ぼす」リーダーと「生かす」リーダーが存在します。私たちは周りの家族・親族・同僚をどう「生かす」事ができるでしょうか。

私たちクリスチャンは、人生の最期に残す遺言は「創造主が私に働いてくださった証であり、My story (私の話)ではなく His tory (主の話)」でありたいと願います。私たちは具体的にどんなストーリーを残せるでしょうか。

1. 教会と記念館の為

(1) ビジョン達成のために

- ①「創造をベースに、99%へ福音を」という教会のビジョンが、創造主によって祝福されますように。
- ②2021年度ビジョン「創造主を信じ、その大能の力によって強くして頂きなさい」の実現の為に。クリスチャン一人一人が、主に繋がり、主によって強められるように。

(2) 教会のため

- ①教会の本質的な働きー礼拝と伝道の働きの為
- ②教会の共同体の関係祝福のために
- ③教会の霊的成長・成熟のために
- ④地域との関係
- ⑤ユースの学び会の為に

(3) ノアの箱船記念館のため

- ①ノアの箱船記念館が伝道のために、クリスチャンの信仰形成の為に用いられます様。
- ②ノアの箱船記念館の財政の祝福、ノアの歩道の為

(4) 教役者のために①堀越葉満主事のため ②宮崎聖牧師家庭のため

2. 教会員の方々の為に

(1) 病にある方々の為に・平安があります様に

(2) 教会からしばらく離れている方の為

(3) 今月の祈禱課題の方々のために

3. 伝道と宣教の為

(1) 洗礼準備・聖書の学びをされている方々のため

(2) 受洗後の学びをされている

(3) 伴侶の救いの為

(4) 伝道のためのグループ(感染から守られる様に)

- ①レプトン
- ②ゴスペル・フラ
- ③卓レシア
- ④女性集会
- ⑤創愛クラブ
- ⑥クラフトカフェ
- ⑦ノア・パーク

(5) ログス・ホープ号乗船